

大量生産と販売における、世界のインフレと通貨変動における新しい現実

令和5年11月3日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これらはグローバリゼーションへの考察として、通貨価値の変動とインフレーションにおける現実が既存大量生産と販売というグローバルスタンダードにおける現実への変化が明確に理解されて良いと考えるものである。

これらが、新しい企業の利益基準を与え、これらは明らかにグローバル基準として新しい経済システムへの移行を意図しているのである。

これらはグローバル企業の強さが存在することを意味するものである。経済というエンジンは、新しい資本という基準において新しい経済システムへの転換を明確に要求していると考えて良いと考えるものである。

経済という現実とは資本主義において、資本という価値判断を有するのである。経済はその所有を容認し、その新しい技術や創造性において未来を有するのである。

これらは日本においてはグローバル企業との競争における自己を有することにおいて理解されてよいと考える。グローバル基準は新しい現実への転換を完了しているのである。

これらは新規マネーシステムや経済システムとともに、未来の創造を提案するものである。

これらは日本の既存価値観や世界における既存価値観を崩壊させるものであり、新しい現実とはもはや、既存の現実として存在するのである。

これらは資本力と技術力が、高い理衛星を与えられていることを理解しなくてはならない。これらは通貨変動がマネーゲームに限定せず企業の自己現実とともに、新しい経済地図を形成しているのである。

これらはグローバル市場における企業のコアコンピタンスは強固なものであり、これらは経済の占有や独占を形成しているのである。これらは他方において開発力や先端MBA他生産システムとともに、新現実への転換を明確に行っているものであり、企業がこれを否定することは不可能なのである。